

看護学生が実習において予測するインシデント・アクシデント

林 資子、本村 香、徳珍温子
大阪信愛学院短期大学

【緒言】 医療安全意識の形成を促すことは看護基礎教育の中で重要である。本調査は学生のインシデント・アクシデントに対する認識を明らかにすることを目的としている。

【方法】 A看護基礎教育3年課程の3年次生90名に対し、平成30年4月の実習前オリエンテーション時に「インシデント・アクシデント予防」のグループワークを行い、「実習で予測されるインシデント」をA5用紙1枚程度に記述しデータとした。得られたデータの分析はフリーソフトKH-coderを使用した。倫理的配慮として、文書と口頭で研究を行う旨を説明し、同意が得られたものを分析対象とした。本研究は大阪信愛女学院短期大学倫理審査委員会の承認を得ている。また利益相反に該当する企業、関係団体等はない。

【結果と考察】 抽出語総数1565語（使用語770語）であった。出現回数が4回以上の語をクラスター分析した結果、7つのクラスターに分類された。それぞれのクラスターの意味を共同研究者間で検討し命名した。クラスター①は「体調不良に関連した患者への感染」と命名した。これは、自分達の危機管理不足によって引き起こすインシデント、アクシデントととらえている。クラスター②は「報告、連絡、相談、確認の怠り」とした。学生の意識の中に、報告、連絡、相談加えて確認が意識付けられていると言える。クラスター③は「物品管理不足」とした。病棟の構造や物品の管理意識が乏しいことで起こると考える。クラスター④は「輸液」とし、学生が実習とイメージしたときに日常に無い輸液を想起し輸液ルートを踏むことを危険と考えていることを示した。クラスター⑤は「個人情報の漏えい」とし、実習において個人情報の漏えいについてはインシデント、アクシデントにつながることを認識していると考ええる。クラスター⑥は「学生の技術不足に関連する患者へのアクシデント」とした。これは、学生の中でも大きなアクシデントと認識している。クラスター⑦は「転倒、転落」とした。身体のケアに関わるインシデント、アクシデントであると理解している。

【結語】 実習に行く前から、学生は十分予測しているが、教育にどう生かし、インシデント、アクシデントの予防につなげられるか考えていく必要がある。これだけのリスク因子を、学生達が認識しているため、教員は実習に出る前に、どのように指導が必要でどのような内容を追加していかなければならないか？学生のレディネスを理解した上で不足していること、伸ばしていくことを介入して教育を行っていく必要がある。